



## 三代澤 康司さん

朝日放送株式会社  
編成本部  
アナウンスセンター  
ゼネラルアナウンサー

若き日を阿南市で過ごされた三代澤さんから  
阿南市が合併5周年を迎えたことへのお祝いの  
メッセージをいただきました。

# 阿南での思い出

阿南市の皆様、合併5周年誠におめでとございます。私は、朝日放送のアナウンサー三代澤康司と申します。実は私にとりまして、阿南は大変思い出深いふるさとのような土地です。そんな話を、数年前岩浅市長にお目にかかった折、お話をさせていただきました。そのことを覚えていらして、このたび「阿南での思い出」という文章の寄稿をご依頼いただきました。大変光栄に思います。

さて、私と阿南市との関わりですが、大学時代、YMCAの阿南国際海洋センターで青少年育成のボランティアリーダーとして活動していました。海洋センターは海の自然を通じて子どもたちを教育する場所であり、海の楽しさ、厳しさ、自然の大切さを教える素晴らしい施設です。いわゆるキャンプ場で、寝泊まりしながら、毎日、海で過ごします。大阪や神戸の小中学生や中学生を相手に、ヨットやカッター、カヌーといった海のプログラムを指導するとても有意義な時間を過ごしました。

子どもたちを相手にするのは主に夏休みですが、自分たちの指導技術や海での経験を増やすために、春や秋にも海洋センターに合宿し、阿南の海で過ごしまし

た。合計すると一年のうち50〜60日を過ごしていました。だから、本当にふるさとのように思えるのです。「ほなけん」と「かんまん、かんまん」心温まる地元の方言も思い出だけで微笑んでしまいます。

当時、阿南に行くには小松島まで船で渡りそこから車。時間もかかりました。ようやく碇泊に着いて丘を越えれば海洋センターです。高台から海が見えるとワクワクしました。海洋センターの前の海は砂浜ではありません。そのためか私にとって阿南の海の色は青ではなく緑色の印象。夏は、入江を取り囲む木々の緑を目にしながら緑の海面に船を滑らせました。早春の3月には冷たい海水と強い風に震えながらヨットを走らせ、カッターを漕ぎました。台風が来たときは大切な船を守るために夜通し警戒に当たりました。そんな自然の美しさや厳しさも阿南の海が教えてくれました。自己形成にとっても大きな影響を与えてくれました。

海洋センターの真向かいに野々島という無人島があつて、そこへの上陸は、冒険心を掻き立ててくれる楽しいプログラムでした。阿波水軍の伝説

なども聞かせてもらい、遠く戦国時代に想いを馳せて想像を膨らませることも多々ありました。とにかく阿南の海が好きでした。目を閉じれば、今でも阿南の海の光景がいくらでも目に浮かびます。海の男をきどっていた若き日々。実家の部屋の壁には、いまだに阿南の海図が貼ってあります。しかし、社会に出て仕事を始めると、阿南に行く機会もなくなってしまうました。気がつくとも四半世紀の時が過ぎてしまいました。当時の仲間たちは、今も時折阿南を訪ねているそうで、変わりない阿南の海の話聞かせてくれます。

現在、ABCラジオで毎日朝9時から12時まで「ドッキリ！ハッキリ！三代澤康司です」という番組を担当しています。実は番組のリスナーさんには阿南市の方も多くいらっしゃるのです、お便りを読んだりした時には、学生時代の阿南で過ごした話などをしていきます。交通インフラも整備され阿南市はまだまだ発展を続けるでしょう。「かんまん、かんまん」という穏やかな人情とともにこれからも美しい自然豊かな街としての発展を楽しみにしています。ぜひまた、阿南に足を運び、懐かしい海の香りや波の音に包まれたらと思っています。